

2011年の棚橋弘至と中邑真輔 (文春e-book)



発売日: 2017年11月16日

出版: 文藝春秋

著者: 柳澤 健

ページ: 359

PDF

2000年代半ば、危機的な状況にあった新日本プロレスの人氣が復活するためには、多大なる

努力と、長い時間が必要であり、常にその先頭に立っていたのが、ふたりのエース、棚橋弘至と中邑真輔だった。総合格闘技とは異なるプロレスの魅力をアピールして、新しいファンを呼び込もうとする“100年にひとりの逸材”、棚橋弘至。総合格闘技と関わることで、プロレスの強さを見せつけようとする“キング・オブ・ストロング・スタイル”こと中邑真輔。まったく異なる方法論を持つふたりのライバル関係は、2011年に転機を迎える。棚橋弘至が断然たる新日本プロレスのエースとなり、中邑真輔はエースの座から追い落とされてしまったのだ。だが、中邑真輔の真の魅力が開花するのはここからだった。

棚橋は言う。「僕が太陽なら、中邑は月のような存在だった。ふたりのうちどちらかが欠けても、いまの新日本プロレスはなかった。棚橋と中邑は一对の存在なんです」と。新たなプロレスの世界を作った、「太陽と月」の物語を丹念に描く。

#### 【目次】

- 第1章ターナー・ザ・インサート
- 第2章王国の破壊者
- 第3章スキャンダル
- 第4章優しいアマチュアレスラー
- 第5章若き王者の誕生
- 第6章ストロングスタイルという幻
- 第7章リベンジマッチ
- 第8章猪木との訣別
- 第9章愛してます
- 第10章平成のベストバウト
- 第11章エースはひとりだけ
- 第12章CHAOS
- 第13章2011
- 第14章イヤアオ!
- 第15章別れ

<https://k2s.cc/file/756da512e0285/OwqfNVFbm.pdf.rar>